

東北関東大震災災害復旧、復興に対する支援決議

去る3月11日に発生した東北関東大震災により、数千人の方が亡くなり、1万人を大きく超える方が行方不明と言われているが、その数は日々増大し、いまだに被害の全容が明らかにはなっていない。また、数十万人の方々各地の避難所に避難されており、飢えや寒さに耐えておられる。亡くなられた方々に心からお悔やみを申し上げるとともに、不自由な避難所生活を余儀なくされている被災者の皆様方に心からお見舞いを申し上げますところである。

新聞、テレビを通じて次々に伝えられる被害の惨状を目の当たりにし、全国民が胸を痛めているが、とりわけ、東京電力福島第一原子力発電所における一連の事故に伴う復旧作業を、祈るような気持ちで見守っているところであり、一刻も早くこの危機を脱し、復興に向けた力強い一歩を踏み出していただくことを願わざるにはいられない。

現在、我が国全土にわたり、被災地、被災者に対する支援の輪が広がりつつあるが、燃料不足などを要因として、命をつなぐために最低限必要な食料、水、医薬品などの支援物資を被災地の隅々までお届けすることが困難な状況が続いており、特に高齢者など災害弱者と言われる方が、地震、津波からは逃れられたものの、避難所でお亡くなりになるという痛ましい出来事も相次ぎ、まさに時間との戦いともなっている。

今は、身の安全が確保され、衣食住が事足り、平穏な生活を営むことができている私たちではあるが、東海地震発生がかなりの確率で予想されている伊東市としても、今起こっていることは決して対岸の火事ではなく、飢えや寒さに苦しんでおられる数十万人にも及ぶ被災者の皆様方に思いをいたし、それぞれが節度、思いやりを持って、不要不急物資の買いだめに走ることなく、節電など、一人一人が今すぐできる協力することはもちろん、今後、長期間が予想される被災地の復興の歩みを少しでも速めるべく、一丸となって協力することが大切なことである。

私ども伊東市においても、計画停電に伴う伊東線の運休などによって観光客が激減し、市内経済が大きく落ち込むなど、深刻な影響が生じ、市民の悲痛な叫びが聞こえてきている。伊東市議会としては、多くの宿泊施設を有する我が伊東市において、国費負担による避難者受け入れなど、具体的施策の提言も視野に入れつつ、今回の震災で亡くなられた方のご冥福をお祈りするとともに、被災者の皆様方が一刻も早く、震災前の生活を取り戻していただくことができるよう祈念申し上げ、積極的な支援を行ってまいります。

以上、決議する。

平成23年3月24日